

**隅田 正三氏** 西中国山地民具を守る会 会長

**実践民俗学提唱50年を振り返って  
—民俗資料回想セラピーの取り組み—**

**北村 春香氏** 浜田市金城民俗資料館 非常勤学芸員

**金城民俗資料館所蔵の紙布と紙漉き道具  
—他に類を見ない紙民具の量と質—**

お問い合わせ先

神奈川大学日本常民文化研究所

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1

☎045-481-5661 内線(4358)

主催 神奈川大学日本常民文化研究所

2019年10月7日(月)

13:30~16:00

神奈川大学横浜キャンパス

9号館911室(日本常民文化研究所)

今回は、創立50周年を昨2018年に迎えた島根県浜田市金城町波佐の『西中国山地民具を守る会』の足跡とその活動の具体的な実践を会長・隅田正三氏に、国指定重要有形民俗文化財の山村生産用具、中でも紙漉き用具を中心に会員・北村春香氏にその製法と道具を紹介していただく。

民具、民俗研究の目的は、現在を生きる住民が自らの手で、地域の過去を知り、未来に活かしていくことだが、その実践はなかなかできない。守る会は、高度成長期に見捨てられ置き去りにされていく民具を「一家一点提供運動」で収集し、「子々孫々まで大切に残す」と記録・整理し民俗資料館を立ち上げた。民具を实际使ったの花田植の農作業復元など、学校児童、古老たちに新たな発見や回想の機会としての活用を志向している。近接する歴史民俗資料館には、貴重なたたら製鉄関連資料、明治期にチベット入境を試みた能海寛の資料も収蔵されている。

地域創生が叫ばれる今日、山陰の山村での住民主体の実践民俗学の活動報告に、是非耳を傾けてほしい。